

行政学 第1回

城山英明

siroyama@j.u-tokyo.ac.jp

1. 序論

1－1 行政の概念とその分析視角

1－1－1 行政学の対象と分析視角

1－1－1－1 行政とは何か？

<対象>

- 狭義：現代統治における官僚制集団（階統制組織、公務員集団）の役割
公的な官僚制組織の活動について考察する学、政府に関するヒエラルキー型組織
の集団行動について考察する学（西尾・行政学、47）
- 広義：社会管理＝機能
社会管理の視点：社会の一定状態を維持し、管理していくための技術・方法－
古代から（森田・現代の行政、8） cf. 監視・統制の視点－政治行政関係の視点
- 広義における2つの含意 cf. コモンズの管理
主体は公的官僚制に限定されず（民間主体等）
方法は階統制に限定されず（水平的調整、契約等）

< 本人・代理人関係（曾我、18~34） >

- 現代民主制：本人・代理人関係の連鎖 cf. 図 1
 - 政治家と官僚の間の分業
 - 政治家は有権者の代理人であると同時に行政に対する本人という2重の役割
 - コントロールの課題：情報の非対称性、モニタリングの困難性
 - コントロールの手法：事前コントロール/事後コントロール、警察巡回型/火災警報器型
 - 官僚制内部も本人・代理人関係の連鎖
垂直的關係but階級制のみならず契約等の方法も含む
 - 本人の複数性－水平的調整が埋め込まれる契機 cf. 図2、図3
- 議院内閣制における連合形成@議会、大統領制における議会と大統領、政府と与党
「上流」本人の存在は、一定の自律性の支持基盤にもなる
本人が複数である代理人としての地方政府、国際組織事務局
cf. 地方政府、国際機関－複数の本人という特徴（曾我、223） cf. 図4
- 国際機関←複数国家
地方政府←中央政府、住民

図 1

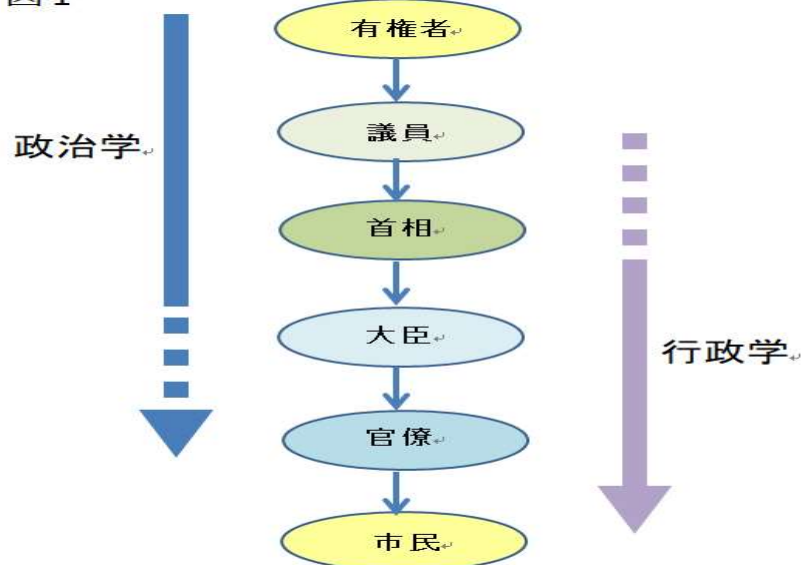


図 2

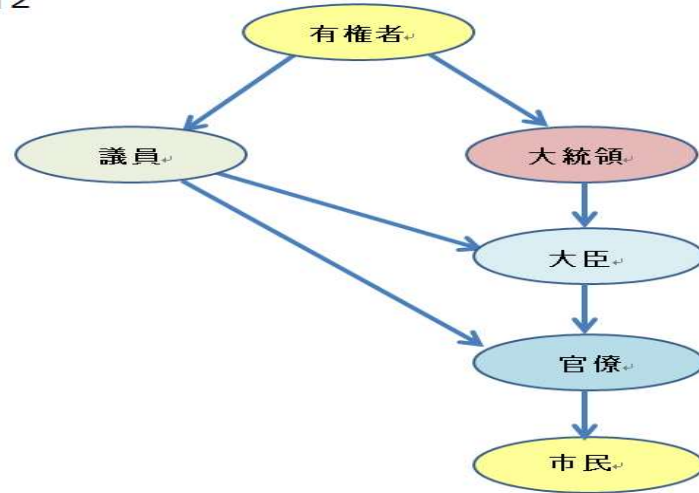


図 3
有権者
社会集団

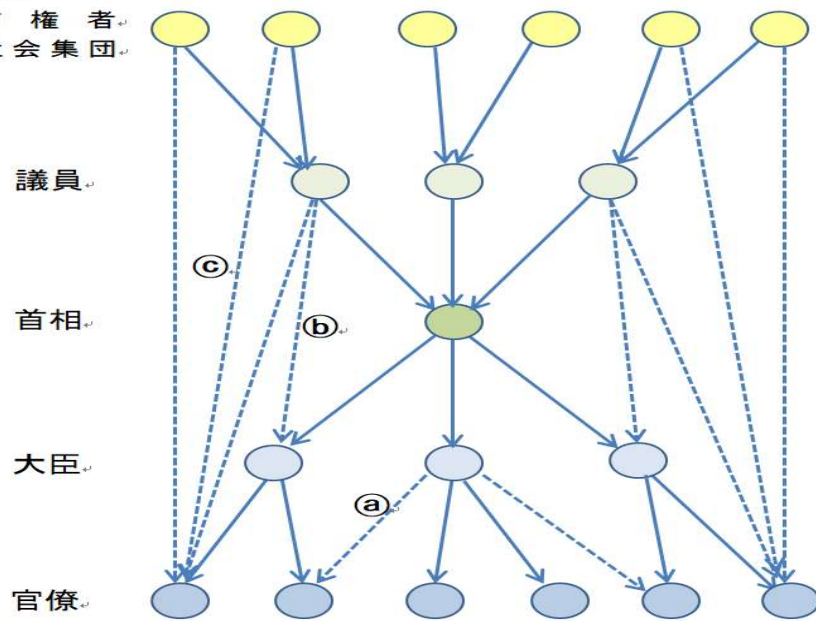
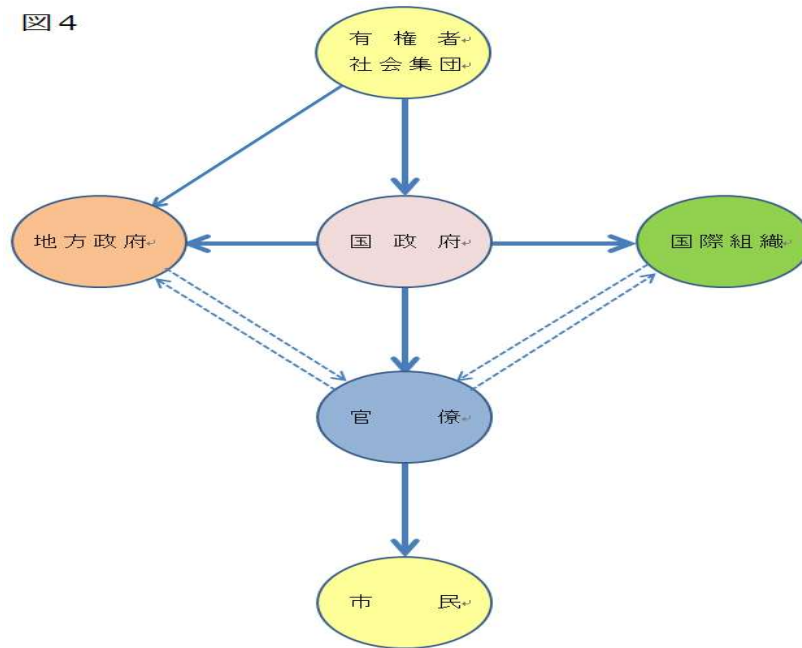


図 4



<ガバナンス>

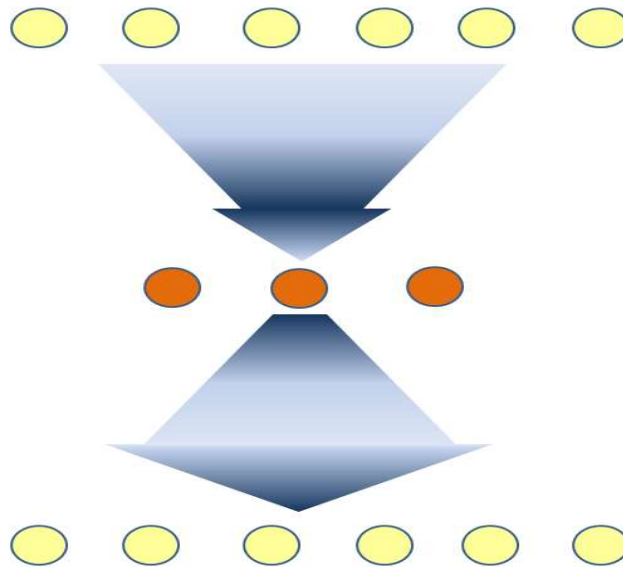
- 自律的な多数の主体が相互に協調し、多元的な調整を行うことによって安定した社会を作り上げる（森田、205）－方法
- 政府部門と民間部門の関係という基本的部分に加えて、政府部門とサードセクターの関係、さらに政府部門が腐敗しないための統制のあり方という2つを加え、これらを総体としてとらえる概念（曾我・行政学、316）－主体
- 多機関連携（伊藤編）cf. “polycentricity”, “redundancy”
- 地域、国際社会における非階統制的手法の重要性 cf. 図5、図4

図 5

市民

役員

市民



<分析次元>

- 制度
- 管理－組織＋4つの資源：情報・ルール・財源・人材
cf. Administrative capacity- coordination, delivery,
analytical, regulatory by Lodge and Wegrich
- 政策・活動

1 - 1 - 1 - 2 分析視角

<政治学との関係>

- 対象集団としての官僚制－本人・代理人関係における「下流部分」への注目
- プロセス分析に際しての制度的・組織的文脈への着目－「制度論」との親近性
cf. 分業と委任（曾我）

<法律学との関係－運用への着目>

- 憲法－政府論・統治機構論
- 行政法－行政法の法社会学という側面

<経済学との関係>

- 経営組織論⇔規模、業務の多様性、限定的競争
- 政策分析 cf. Cost Benefit分析⇔プロセス分析、フィージビリティ分析、多次的評価
- 公共選択論（Public Choice）

<縦割り行政学（教育、公衆衛生等）と横割り行政学>

<行政学の特徴：実践志向と学際性（曾我、6）>

<記述、説明（原因、結果）cf. 3つのI（利益、制度、アイディア）>

構成案

1. 序論

1 - 1 行政の概念とその分析

1 - 1 - 1 行政学の対象と分析視角 cf. 階統制、水平的調整、本人代理人関係

1 - 1 - 2 行政分析の基礎－フッドの行政活動分析を中心に

1 - 2 統治構造の歴史的変容と行政学

1 - 2 - 1 統治構造の歴史的変容cf.行政国家・職能国家・福祉国家、準国家、規制国家

1 - 2 - 2 行政学の成立と対応

1 - 2 - 3 新たな潮流：NPM（New Public Management）・NWS（New Weberian State）・NPG（New Public Governance）・電子政府（Digital Governance）等

2. 制度論

2-1 政府内制度設計

2-1-1 政治・行政関係cf. 議院内閣制と大統領制、多数決型とコンセンサス型

2-1-2 内閣制度と内閣機能の強化

Special Lectures by Prof. Martin Lodge (LSE)

1) The capacity of states under globalization and developing science/ technology

2) Impact of those changes on the governance structure- relationship between politicians and administrators, role of experts from comparative perspective

2-2 政府間関係－国際組織・国・地方自治体

2-2-1 地方政府と地方分権

2-2-2 国際行政と多層ガバナンスcf. 機能的組織化、WTO、財政人事関係

2-3 政府社会関係

2-3-1 構造－民間組織を含むネットワークと政府と社会の相互作用

2-3-2 具体的諸相－民営化・民間委託と境界領域組織・NPO/NGO・独立行政法人

3. 組織・管理論

3-1 官僚制論・組織理論

3-2 日本の行政組織 cf.内閣官房・内閣府、行政委員会、省庁組織の動向と国際比較

3-3 公務員制度と人事管理 cf. 数の動向、政治任用、事務官と技官、多様性・代表性

3-4 財政制度と予算編成 cf. 財政赤字、調達制度

3-5 情報・知識の生産・流通・管理 cf. 統計制度、公文書管理、番号制度

3-6 ルール制定・管理・実施とその基盤的能力cf. 内閣法制局、規制改革、ソフトロー

- 4. 活動論－政策過程とそのマネジメント
- 4－1 政策過程（政策サイクルと政策過程モデル）
- 4－2 アジェンダ設定－問題定義、フレーミングとアセスメントの役割
- 4－3 政策決定と合意形成
- 4－4 日本の省庁等における多様な政策形成過程の諸類型
- 4－5 政策実施－第一線職員と対象集団の相互作用
- 4－6 政策ネットワークの自律性と変化のメカニズム
cf. トランジションマネジメント、政策ラボ・政策デザイン
- 4－6 政策評価
- 4－7 行政責任の確保 cf. パブリックコメント制度とその運用